

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2014年
6月10日(火)
第112号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

世田谷

待機児童解消と保育の質の向上求める陳情書 22,682筆の願いは継続審議に

世田谷区職労も参加する「公的保育・福祉を守る世田谷実行委員会」が3月から取組み始めた区議会あての陳情署名は、昨年の1万8113筆を大きく上回り2万2682筆となりました。陳情の審議は5月28日、福祉保健常任委員会で行われ、「継続審議」の取り扱いとなりました。

38人が傍聴、あふれる思い 「世田谷の保育の質守って」

今年の4月。世田谷の待機児童が1000人を越したという衝撃的な事実を前に、私たちは「待機児童を解消したい」、そして「入れればどこでもいいのではなく、基準のしっかりした認可保育園を増やしてほしい」という思いを署名に託しました。

審議が行われた5月28日は、赤ちゃんを抱いた育休中のお母さんを含め38の方が傍聴しました。

陳情者側から3人が趣旨説明に立ちました。私立保育園の園長先生は、「妊娠がわかって本来なら幸せな時期なのに、保育園に入れるかと不安な状態になる。園庭がない保育園では外遊びが十分できない。遊び場を求めて公園ジプシーになるなどの状況も見られる。アレルギー児、要配慮児などの対応は基準のしっかりした認可保育園で行いたい。」保育室の園長先生は「世田谷独自の保育室制度を守っていただき感謝している。有資格者を10割に近づけられるよう区として支援して欲しい」。私立保育園保護者からは「子どもの権利条約で掲げられている子どもの意見表明権は乳幼児期にも当然あり、保育士は幼い子どもの意見を表情や仕草で理解する。それには高度な知識と経験が必要」、「保育士の労働条件の悪化が保育の質の低下につながる。処遇改善が必要」と訴えました。

「質より量を」の発言に怒り

一部の議員さんからは「待機児童が多い中、なぜ認可にこだわるのか、特に区立はお金がかかる。公務員をこれ以上増やせない」「0歳から2歳までの待機児童園を作ると、3歳になった時の行き先がない」「財政上、区立2園の運営費で私立3園が運営できる」「悪い企業はママ友のネットワークで情報が広まり淘汰される」「質のことも大事だが、今はとにかく保育園をたくさん作らないといけない。量をどれだけ増やせるかということだ」等の否定的な発言がありました。

それに対して、趣旨説明の3人から「区立は自治体に100%責任がある。保護者は区立をなくしていく方向には疑問を持っている」「保育園の運営費のほとんどは人件費。この割合が低くなれば、非正規化が進む」「民営化の際のガイドラインをほかの自治体の保育園長が見て、レベルが高いと言っていた。行政や議会なども入って議論した結果だ。世田谷の保育水準は保護者に評価されている」など陳情内容を支持する発言もいただきました。

全体をとおして「企業を積極的に参入させよ」という意見が一部に止まったことは、この間の様々な事故やトラブルを議員さんもお存じだからなのでしょう。ただ、「質より量を」という意見には、傍聴者からは「怒りがわく」「子どもの安全や成長を考えていない」などの感想がたくさん寄せられました。又、初めて議会の傍聴をして、議論の過程がわかった」「財政のことももちろん重要だが、子どものことを一番に考えてほしい」「質と量は切り離して考えられない」などの感想をいただきました。

審議は、民主党、行革110番が「不採択」、自民党、公明党、生活者ネットが「継続審議」、共産党が「採択」で、結果は「継続審議」となりました。

【裏面へ】

採択はされませんでしたでしたが、昨年を上回る署名数と街中での反応に力を得て、私たちはさらに運動を続けていくことの大切さを確信しています。新制度が条例化される9月に向けた取り組みを、広範な区民、保育関係者とともに計画していきたいと考えています。署名にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

品川

子どもに格差のない豊かな保育を求め る品川実行委を結成

さまざまな保育事業を実施している、品川区の保育行政ですが、この4月、認可保育園を希望しても入れなかった人数は1131人と、待機児童が解消されるどころか、さらに増えている状況です。品川区に対して入園できなかった区民が不服申し立てを行ったことは、新聞でも報道されました。品川区は6月の区議会で大方の条例を決めていく方向ではないかとのことから、4月に保育関係者や区民が集まって、「子どもに格差のない豊かな保育を求まる品川実行委員会」を結成しました。そして、2015年4月から実施される予定の「子ども・子育て支援制度」のねらいをまずは自分たちが学び、区民に知らせ、請願署名を6月の区議会に届けようと行動が始まりました。

「子ども・子育て支援新制度」を知ろう！

5月25日には福島大学の宮野大先生（全保連会長）を講師に新制度について学びました。

新制度では「教育」と「保育」をはっきり分けている。乳幼児期に大切に育てたいことは①話し言葉を豊かにすること（人とともに何かをなすこと）②難しいことを面白いと思ってやり続ける意欲、③人・物・情報に自分から関わろうとする関心や熱中する力。幼児期に育つこれらの力を土台として小学校で力を発揮すると話されました。

参加者からは「入園できなかったママ友と一緒に参加した。安心して子供を預けられるよう認可保育園を増やしたい」「公設民営の園で仕事をしているが、忙しくて学習などする時間がない。もっと勉強したい」「子どもの育ちを大切にすること、土台作りが大事との話を聞き、参加してよかった」などの感想が寄せられました。

大井町駅頭・署名宣伝行動に多くの区民が共感！！

学習会の後すぐに大井町駅頭にて「認可保育園の増設と保育の質の向上を・新制度施行後も区の責任で行うことを求める請願」署名・宣伝行動が行われました。その日は区のイベントなどもあり、親子連れが多く、着ぐるみのうさぎで風船を渡しながら、「保育園について知っていますか？」「認可保育園を増やして、子供たちが豊かに育つよう国に求めましょう！」と訴えると、共感が広がり署名に応じてくれました。また、「区議会議員はこのことを知らないのではないか」「保育園OBです！」と声をかけてくれた区民や中学生もいました。集まった署名は1時間で100筆を超え、参加者は20名でした。多くの区民に共感してもらえたと実感しました

実行委員会ではこの後も、毎週駅頭宣伝・署名活動を続けること、各団体への申し入れ、チラシの新聞折り込み、宣伝などを続け、6月の議会に向けて活動していく予定です。

【傘下の 組織や保育関係者に配信・配布してください。】